

2024

IKIMONO



生きもの写真

リトルリーグ

小中高生
対象



受賞作品集

全国の小中高生124名から

計300作品

が集まりました!

自然や生きものの魅力を切り取った
あらゆる写真をぜひご覧ください!

【主催】

公益財団法人 セディア財団

【後援】小諸市／小諸市教育委員会／一般社団法人 日本自然科学写真協会／公益社団法人 日本写真協会
【協賛】パナソニック株式会社／株式会社ミマキエンジニアリング

審査員のご紹介



昆虫写真家 うんの 海野 和男



写真家 あんじゅ 安珠



フォトエディター 石田 立雄



科学写真家 いちじ 伊知地 国夫

審査員長 うんの 海野和男先生からのメッセージ

生きもの写真リトルリーグ2024は市立小諸高原美術館で開催されました。入選者9名をリアルで小諸に招いての開催は5年ぶりになります。今回はセディア財団主催の初のコンテストになりました。

写真のレベルは非常に高く、特に鳥の写真は素晴らしい作品が多数ありました。生きものサミットでも、写真を通して入賞者の生きもの知識が高いことにも驚かされました。

カメラが進化して、以前なら難しかった鳥の写真も撮れるように

なったのでしょうか。親子で撮影に行っているのだと思いますが、家族の絆を深めるのにも生きもの写真リトルリーグは一役買っていると思うと、嬉しい限りです。一方、以前は小学生に多かった昆虫の写真が少なかったのはちょっと寂しかったです。

子供の時から写真を通して生きものに興味を持つことで、これからの地球環境を考える子供たちが育つことを切に望みます。

審査員長 うんの 海野 和男

結果発表

最優秀作品賞〈セディア財団賞〉

てつかやま
帝塚山学院中学校高等学校 中学2年生

岩田 麻央 「海辺で見つけた鳥の採餌風景」

優秀作品賞

〈小学生部門〉

なんべいたい
高槻市立南平台小学校 6年生

おとみ
田中 詩湊

「美しく生きる」

〈中学生部門〉

香川県藤井中学校 2年生

さくの
大坪 桜乃

「可愛い顔して…」

〈高校生部門〉

群馬県立太田高等学校 3年生

青木 翔吾

「竹筒の小さな職人」

小諸市長賞

小諸市立東小学校 5年生

原 夏樹

「SONG!」

入選

いっとうえん
一燈園小学校 5年生

池島 朝陽

「ミサゴに迫る危機」

神奈川県横須賀大津高等学校 1年生

矢口 孝太郎

「アオダイショウ」

石狩市立樽川中学校 3年生

本多 剣次

「近所の公園で撮った野鳥たち」

愛媛県立今治南高等学校 3年生

あきのぶ
尾田 旭信

「矢の如く」

最優秀作品賞〈セディア財団賞〉

「海辺で見つけた鳥の採餌風景」

てづかやま
帝塚山学院中学校高等学校 中学2年生 岩田 麻央



▶ 作品について

海辺で鳥の採餌を観察した。そのうちの4点を紹介する。キアシシギはカニを、ハマシギはゴカイを、カラスたちは打ち上げられた魚を、コサギは小魚を食べていた。鳥の種類による食べるものの違いや、カラスだけが一つの獲物を複数で食べていることを不思議に思った。

優秀作品賞

〈小学生部門〉

「美しく生きる」

なんべいだい
高槻市立南平台小学校 6年生 おとみ 田中 詩湊



▶ 作品について

虫たちは一生懸命に生きようとしているのに、「キモイ」と言う人もたくさんいます。食べ物を毎日探し求め生きている彼らこそ、人間より美しくすごいのではないかと思います。そこで、テントウムシたちが美しく生きている姿を写真に収めて伝えようと思いました。

〈中学生部門〉

「可愛い顔して…」

さくの
香川県藤井中学校 2年生 大坪 桜乃



▶ 作品について

私は小さい鳥が好きです。がその可愛さとは裏腹に食べる物は昆虫だったりする。

優秀作品賞

〈高校生部門〉

「竹筒の小さな職人」

群馬県立太田高等学校 3年生 青木 翔吾



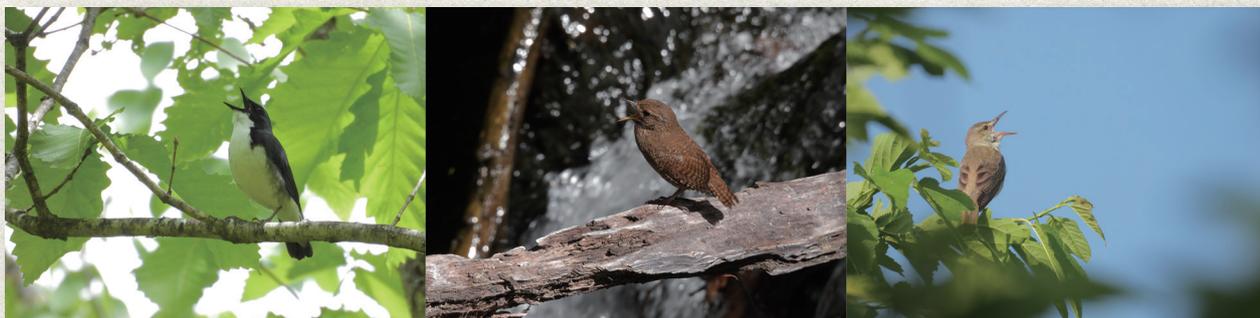
▶ 作品について

鳥撮影用のセンサーを用いて撮影しました。カメラの画角、センサーの位置、ライティングなどの条件を変えながら、迫力や躍動感を表現するために、下から見上げるようにカメラを配置するなど試行錯誤し、2年かけて撮影しました。

小諸市長賞

「SONG!」

小諸市立東小学校 5年生 原 夏樹



▶ 作品について

片や、春になり、夏になり、元気に囀る野鳥たち。片や、四季を通じて鳴く野鳥たち。どんな野鳥も、どんな時でも、美しい歌声を聴かせてくれます。そんな野鳥たちの鳴く様子を撮影しました。「SONG!」

入選

「ミサゴに迫る危機」

いっとうえん
一燈園小学校 5年生 池島 朝陽



▶ 作品について

大阪南港野鳥園にある一本の杭。この杭はミサゴが大好きな休憩スポットで、捕まえてきた魚を食べていたら、餌の横取りをしようとしているカラスが迫ってきました！負けるなミサゴ！

「近所の公園で撮った野鳥たち」

石狩市立樽川中学校 3年生 本多 剣次



▶ 作品について

すべての写真は、自宅近くにある前田森林公園で撮影しました。1枚目はオオアカゲラのオス、2枚目は亜種ハチジョウツグミ、3枚目はハイタカのオス、4枚目は亜種ミヤマカケスです。

「アオダイショウ」

神奈川県横須賀大津高等学校 1年生 矢口 孝太郎



▶ 作品について

近所の森や神社などいろいろな所にいるアオダイショウを撮影しました。気性が荒い個体や大人しい個体、大型な個体や若い個体などいろいろな個体を見ることができました。

「矢の如く」

あきのぶ
愛媛県立今治南高等学校 3年生 尾田 旭信



▶ 作品について

アオサギが勢いよく空へ飛び立つところを撮影しました。このアオサギが飛び立つまで約1時間辛抱強く待ちました。流し撮りすることで躍動感を演出しました。背景の葉の緑色やオレンジ色とアオサギの青色のカラフルさも魅力です。

審査員講評

各作品への講評をご紹介します。

今回の写真コンテストを踏まえて

自身の感性をさらに磨くとともに、

自然と人の共生について

見つめ直していただくことを期待しています。

優秀作品賞 「美しく生きる」

高槻市立南平台小学校 6年生 田中 詩湊

講評 (審査員 安珠)

この作品には心がこもっています。虫は「キモイ」なんかじゃなくて、素直に生きて「美しい」という田中さんの気持ちが、写真から伝わりました。自分の気持ちは写真には写りませんが、その気持ちが一生懸命に粘り強く撮る努力をさせます。身近なテントウムシですが、撮ろうと思うと数ミリしかない小さな命。その誕生に光を当て、色や構図を考えて、粘り強く、美しく撮りましたね。テントウムシは幸福を運ぶ虫と言われています。

優秀作品賞 「竹筒の小さな職人」

群馬県立太田高等学校 3年生 青木 翔吾

講評 (審査員 海野 和男)

竹筒を利用して子育てをするハチの生態を真正面からとらえた見事な作品です。ハチは小さいので、センサーを使った自動撮影とあるので驚きました。昔はセンサーとフラッシュがないと難しい写真でしたが、今はカメラの機能が進化したので、センサーなしに撮ることが多いのですが、ピントがしっかりあって、フラッシュの光で撮っているの、とてもシャープです。

入賞 「ミサゴに迫る危機」

一燈園小学校 5年生 池島 朝陽

講評 (審査員 石田 立雄)

2羽の争いをドンピシャに超望遠レンズでとらえた、小学5年生の作品とは思えない、大人顔負けの1枚です。顔を合わせた瞬間、互いがらみ合っている緊張感が伝わってきますね。体は小さいけれど猛禽類であるミサゴと、なんかミサゴをモノともしないようなカラスが対峙する面白さもあります。池島さんは、大阪南港野鳥園にある1本の杭で繰り広げられた鳥たちのドラマの他に、水田に群れるタマシギの親子、冬の伊勢湾をゆくスズガモの大量の作品を送ってくれました。鳥たちが本当に好きなのですね。

入賞 「アオダイショウ」

神奈川県横須賀大津高等学校 1年生 矢口 孝太郎

講評 (審査員 安珠)

近所のアオダイショウの生態を観察した組み写真の応募ですが、神社で撮られた1枚が飛び抜けて素晴らしく受賞に至りました。木の枝に絡まり、怪しく青光りしている大きなアオダイショウ。フレームいっぱい写っている詞(ほこら)と狛犬(こまいぬ)の背景で、森深い神社だとわかります。構図や光が絶妙で、蛇の不気味さよりも神々しさを感じ、神社を守るアオダイショウの物語を想像させます。生態を撮るにしても説明的にならず、センスを生かして撮った写真はみんなを感動させます。

最優秀作品賞 「海辺で見つけた鳥の採餌風景」

帝塚山学院中学校高等学校 中学2年生 岩田 麻央

講評 (審査員 石田 立雄)

今回は野鳥作品の応募が非常に多く、どれもが優れた作品で大変な激戦でした。その中で『海辺で見つけた鳥の採餌風景』がみごと最優秀作品賞に選ばれました。海辺で鳥たちが餌をついばんでいる姿をとらえた4枚組の作品で、鳥の種類によって食べる餌が違うことに気づき、和歌山県や兵庫県の海岸まで出かけて丹念に観察を続けて「採餌の瞬間」を撮りためた力作です。野鳥愛だけでなく、鳥の生態にも視野を広げる“探究心”が光ります。

優秀作品賞 「可愛い顔して…」

香川県藤井中学校 2年生 大坪 桜乃

講評 (審査員 海野 和男)

3種類の小鳥が虫を捕まえたところを組写真にしました。虫を捕らえている写真を撮るのは大変難しいです。背景の彩りもよく、このような写真を撮ることができたことに、大変びっくりしました。ほくも狙ったことはありますが、こんなに上手には撮れませんでした。

小諸市長賞 「SONG!」

小諸市立東小学校 5年生 原 夏樹

講評 (審査員 海野 和男)

小鳥のさえずりは耳ではよく聞こえますが、鳴く姿を写真にとらえようと思うと、結構難しいものです。原さんは3種類の小鳥、コルリ、ミソサザイ、オオヨシキリがさえずっている姿を見事にとらえました。特にコルリは葉のかけで鳴いているところで、しっかりピントを合わせ瞬間を切り取るのは、かなり難しかったでしょう。鳴いている作品だけ3点で構成したのは、本当に素晴らしいと思います。

入賞 「近所の公園で撮った野鳥たち」

石狩市立樽川中学校 3年生 本多 剣次

講評 (審査員 伊知地 国夫)

4枚の組み写真の作品です。自宅近くの公園にくる鳥を、それぞれの鳥の特徴がよくわかる良いアングルで写しています。特にミヤマカケスは飛翔中の羽を広げた瞬間を、うまいタイミングで撮影し、きれいな羽の色・形とこちらを向いた視線が相まって、躍動感あふれる作品になりました。

入賞 「矢の如く」

愛媛県立今治南高等学校 3年生 尾田 旭信

講評 (審査員 伊知地 国夫)

背景が流れて写っている中に、アオサギがまっすぐ前を見据えて飛ぶ様子が浮き上がるように捉えられています。飛び立つ瞬間を1時間も待ったとのことですが、その一瞬を逃さず流し撮りをしたことで、静止画であるにもかかわらず動画のような躍動感ある作品になりました。羽の色と背景の葉の色のコントラストもきれいですね。

コンテスト要項

生きもの写真リトルリーグは「生きもの」をテーマとした写真コンテストです。自然や生きものに興味を持つ、全国の小学生・中学生・高校生を対象に、全国各地に暮らす生きものたちの魅力を表現した写真を応募いただきました。この写真コンテストが、子どもたちが自然や生きものを見つめ、自然と人の共生を自発的に考えることで、写真や芸術の表現力を育む機会になればと願っています。

テーマ

「生きもの」 ※生きものには植物・きのこなどを含み、人は含みません。

対象

小学生、中学生、高校生の個人の応募

※グループでの応募も歓迎します。

※応募にあたっては、保護者の方の同意が必要となります。

募集内容

単写真または最大4枚の組写真。

お一人あたりの応募は最大4作品まで。

一枚につき10MB以下のJPEGデータでご応募ください。

応募期間

2024年5月10日(金)～6月10日(月)

賞と賞品

- ◆最優秀作品賞(セディア財団賞):
賞状、記念楯、副賞(パナソニック社製 ミラーレスデジタル一眼カメラ) ……1点
- ◆優秀作品賞:賞状、記念楯、副賞(パナソニック社製 コンパクトデジタルカメラ)
……………小中高生から各1点ずつ3点
- ◆小諸市長賞:賞状、記念楯 ……1点
- ◆入選:賞状 ……4点

審査方法

小・中・高それぞれ3点ずつ、計9点を予選審査にて選定し、本選にて各賞を決定。

※本選進出した場合、下記2名を市立小諸高原美術館にて8月3日(土)開催の本選・表彰式に前日の宿泊よりご招待いたします。
(現地までの往復の交通費を含みます。) 応募者 / その保護者または担当教諭1名。

〈審査員〉 審査員長 / 海野 和男 審査員 / 安珠
審査員 / 石田 立雄
審査員 / 伊知地 国夫

入賞発表

2024年8月上旬

応募方法

撮影した写真データをGoogleフォームより必要事項入力の上、ご応募ください。

個人情報のお取り扱い

応募によりご提供いただいた個人情報は、事務局で厳重に管理し、生きもの写真リトルリーグの運営上の各種手続き(応募に関する結果連絡、賞品の発送、入賞者・作品の発表など)以外には利用しません。

経過報告

作品募集

2024年4月8日(月)よりセディア財団HP上で情報公開を行い、2024年5月10日(金)より作品募集を開始しました。

締め切り

6月10日(月)の応募締め切り日までに、全国の小学生・中学生・高校生124名から、計300作品もの力作が集まりました。

予選審査

審査期間:6月11日(火)～6月28日(金)

応募作品を慎重に絞り込み、最終審査会への進出作品を小・中・高それぞれ3点ずつ、計9点を選出しました。

最終審査会

開催日:8月3日(土) 場所:市立小諸高原美術館

予選審査で絞り込まれた作品9点を対象に厳正に審査を実施し、受賞作品を決定しました。

※受賞者・受賞作品は1ページ参照